

おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 7 号 (6 月 7 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

悲願達成ならず 胸を張って東北大会へ

6月4日(金)~6日(日)、県総体第二ラウンドが天童の県総合運動場で開かれました。4日3回戦の相手は、昨年度のYリーグで煮え湯を飲まされた東海大山形。技術に裏打ちされた丁寧なパスワークからゴールを目指すスタイルは、山形県の中でも屈指のもの。顧問の指導力・話術でも、県内随一を誇る。第一ラウンドの長井高校戦で9-0の圧勝で勝ち上がり、大会本部でも、「今日山東の相手はどこ?え?東海?んじゃ分が悪いね」などと言われてしまう波に乗っている相手。「負ければ終わり」の山東としては、本部諸氏の予想を裏切らないといけない。ボランチの市村が怪我から戻り、中盤でも役者がそろった山東としては、実は「裏切る」自信がありました!

東海は、怪我のためか、主将でボランチの選手が先発に名を連ねておらず、トップまたは1.5列目で東海の攻撃のタクトをふるう選手がボランチの位置まで下がっている布陣。一番警戒していた選手だけに、ポジションが山東ゴールから遠ざかるFWからMFへのコンバートは、山東としてはうれしい誤算。序盤から山東やや優勢で試合が進む。市村と田嶋という怪我明けボランチコンビがショートパスを丁寧につなぐことができ、これまでになく?落ち着いて試合を進めることができている。「チームが仕上がった」と実感できる試合内容。あとはゴール前で仕事をするだけなのですが、落ち着きがあるのはゴールから遠い位置だけで、ゴール前では雑になってしまう(どこかの代表チームと同じ)。前半0-0。前半は確かに山東が押し込む時間が長かったです。シュート数はそれほど多くなく、「攻めている気になっている」だけの展開。得点がほしい後半。そしてとうとうゴールの時間がやってきました。前半思うように持ち味が出せずスピードを活かした「らしさ」が影を潜めていた右サイドバック桂木が、右サイドハーフ賢祐を追い越し賢祐からボールを受けワンタッチで絶妙センターリング。スピードのあるライナー性のボールを、FW藤盛が、飛び出したGKの前で高々と頭で合わせ、待望の先制。パチンと交錯音のする高く力強いヘディングでした。その後、敵GKとDFを執拗に追いまわしボールをかつさらう「得意の形」から、FW松永が追加点を決め、勝負を決める。久しぶりに良い山東を見ることができ、気分良く翌日に臨みました。

5日準決勝の相手は、地区総体でPK負けしている山形商業。4日に2回のビハインドの状況をドラマチックな同点劇で追い付き、PK合戦にて山形中央を破った相手。今季公式戦無敗の山商を止めるのは山東だ、(準々決勝で東海に昨年度の借りを返したので)準決勝では地区総体のリベンジだ、との思いで試合に臨みました。試合は、前日に続き、ボ

ランチ・FWの調子が良く山東やや優勢。ただFWに一発の力のある相手だけに、「気が気でない」。素晴らしい山商GKからとにかく早く得点を奪ってほしいと願う。前半は、絶妙のタイミングで動き出した藤盛が松永からスルーパスを受け右足でファーサイドに強烈シュートを放つも、ポストに嫌われ、スコア0 - 0。正直このシュートだけは、ベンチから見ていて「絶対入る」と思いました(残念!)。そして後半。左サイドハーフの直弘がいつもの通り、ひよろひよろとドリブルでバイタルエリア(MFとDFの間のスペース)に進入しスルーパスを放つ。それに反応し絶妙なターンでDFを置き去りにしたのがポランチ市村。左に打つと見せかけて右方向に強いインサイドキックで流し込み、待望の先制。さあ押せ押せだ、と攻め立てるも、そこは敵も然る者。山東の一瞬の隙を逃さず、オウンゴールから得点を奪い、同点に。山東としては良い流れになっていただけにもったいない失点でしたが、前日の山形中央戦同様、ビハインドになっても決してあきらめない山形商業の強い気持ちで得点(山東からすれば失点)をもたらした瞬間でした。「簡単には行かない」とベンチでつぶやく遠藤顧問。そう、そうなんです。苦しい中を勝ち上がらないといけない大会なんです。まずい・・・と思いかけた刹那、ペナルティエリアの左外から左サイドバック大久保がFKを放つと、両チームの選手が交錯している間にボールがひとりでゴールマウスの中へ。出ました山東得意?のシューティング(山東サッカー部の造語、たしか前キャプテンの鬼嶋が命名者だったような)。2 - 1の展開に。その後は、山商が確実なボールポゼッションから山東ディフェンスを揺さぶり、山東を苦しめるも、なんとか凌いでタイムアップ。山東の調子は悪くありませんでしたがやはり苦しい試合でした。

そして6日、とうとう最終日までやってきました。決勝の相手は、前日鶴岡工業をPK合戦の末破った前年度チャンピオン羽黒高校。そのPK合戦で羽黒は、鶴工の5人目のキッカーが決めれば羽黒負け、の状況まで追い込まれましたが、そこから這い上がって勝利を手にしました。5人目が蹴るとき、顧問今野は「明日の決勝の相手は鶴工か。鶴工にはYリーグ初戦で負けているなあ。あ~そっか、今大会はリベンジの大会なんだ」と思ってしまいました。しかしどんでん返して相手が羽黒になり、「羽黒には昨年度県新人で勝っているんで・・・まずい、んじゃリベンジされるのは山東なのか」などと前日に考えたことがいけなかったのか。まず結果から書きますと、0 - 1で敗戦。正直な感想を言えば、羽黒は強かったです。県代表にふさわしいチームでした。前半から高さスピードある攻撃陣が自信をもって1対1で仕掛け、山東は後手後手に回らざるを得ませんでした。そんな悪い流れの中で、ボールの奪い際、山東の一瞬のすきをついたロングシュートを見事決められ、前半を0 - 1で折り返す。実は山東は春先から(いや東北新人からか)ずっと前半の入りが悪く、後半に徐々に持ち直してくるスタイルだった。今大会も得点はすべて後半でした。なので、なんとか前半悪くても0 - 0で折り返したかったのですが、そうさせてくれなかった羽黒。後半は少しずつ山東が押し込む時間が増えていくも、ゴールは遠く、無得点のままゲームセット。選手たちは怪我していない選手が一人もいないんじゃないかというくらい満身創痍でしたが、最後まで全力で戦いました。悔いがないとさえ言うそになりますが、選手たちは力を出し切ってくれた、そんな大会でした。胸を張って東北選手権(6月17日~21日)に出場してきます。

最後になりますが、大変多く保護者の皆様、保護者OB・OGの皆様、山東サッカー部OB・OGの皆様、そして鈴木正浩先生をはじめとする元顧問の皆様から、大きなご声援を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。